

夏山冬里方式によって育てたいわて山形村短角牛

(岩手県：JA新いわてくじ短角牛生産部会・肥育部会)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○			○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

・所在地：岩手県久慈市山形町

	生産部会	肥育部会
部会長	柿木 敏由貴	中屋敷 稔
部会員数	29戸	10戸
飼養頭数	330頭 (繁殖雌牛)	400頭 (肥育牛)

・HP (肥育部会) : <https://tankaku-hiiku.com/>



いわて山形村短角牛の放牧風景 (久慈市基幹牧場)

<取組について>

○ 概要

・「いわて山形村短角牛」の飼養管理を行う。

自然交配により生まれた子牛を、5月～11月頃まで、親とともに放牧(「夏山冬里」方式)。放牧後は牛舎で飼養。飼料用とうもろこしサイレージ※1や国産飼料(非遺伝子組換え)で肥育。なお、飼料用とうもろこしは、いわて山形村短角牛肥育農家等が生産。

※1 保存性を高めるため、飼料用とうもろこしを細かく裁断し、乳酸発酵させたもの。

・いわて山形村短角牛の理解醸成等を目的に、首都圏消費者との交流会※2を実施。

※2 (有)総合農舎山形村、消費者団体と連携し、飼養体験、民泊、いわて山形村短角牛のバーベキュー等を実施。令和2年以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで実施。

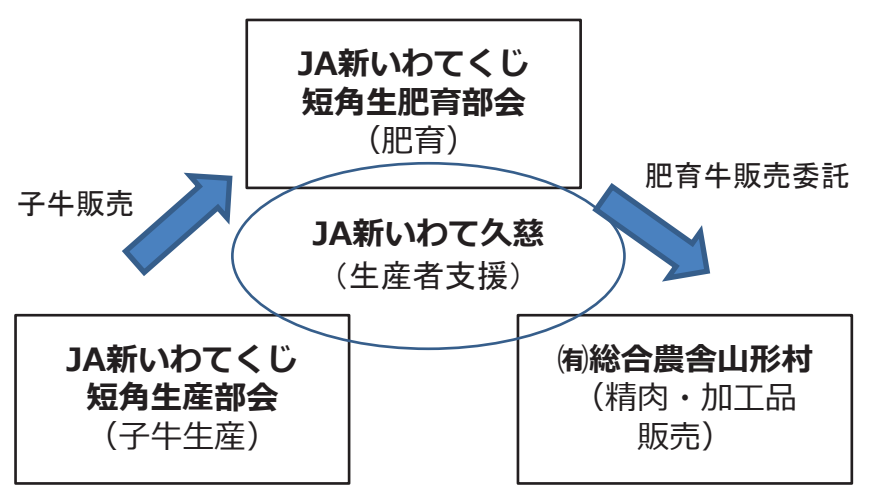
・いわて山形村短角牛の精肉は、(有)総合農舎山形村と連携し、外食産業や地元消費者向けに販売。

○ 今後の課題

- ・飼料用とうもろこしの作付面積拡大及び単収向上。
- ・給餌マニュアルの改善による肉質の向上。
- ・新型コロナウイルス感染拡大等を踏まえた、新しい形での消費者との交流会の開催方法の検討。
- ・民間の食材宅配サービスと連携等による販路拡大。
- ・(有)総合農舎山形村との連携による新たな加工食品(ミートボール、コロッケ等)の開発。



「夏山冬里」方式



地域との連携図